

1. 被覆による農地気象の改良

学習のねらい

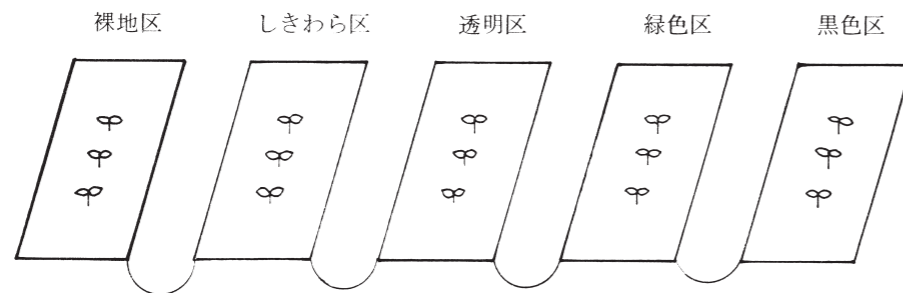
- (1) 被覆材料の違いによる地温上昇の効果を理解させる。
- (2) プラスチックフィルムも透明、緑色、黒色等の色により、地温や雑草繁茂、作物の生育や収量に違いのあることを理解させる。
- (3) 作物の生育に適した被覆材料を選ぶ能力を養う。

準備

プラスチックフィルム（透明・緑色・黒色）、わら、地中温度計、テンションメータ、物さし

方法

- (1) ほ場に裸地区、プラスチックフィルム区（透明区、緑色区、黒色区）、しきわら区等をつくり作物を栽培する。
- (2) 晴天の日、各区の地中温度 $5\text{ cm} \cdot 10\text{ cm}$ を測定し比較する。
- (3) 曇天の日、各区の地中温度 $5\text{ cm} \cdot 10\text{ cm}$ を測定し比較する。
- (4) テンションメータで各区の水分量を測定し比較する。
- (5) 雑草の発生状況、生育について観察する。
- (6) 作物の生長（草丈、葉数、分枝、分けつ）数などを調査する。
- (7) 作物の成育日数、収穫期、収量を調査し比較する。
- (8) 実験区の設定



まとめ

(1) 被覆の種類と湿度の関係

	月 日 時 分 気温 °C			月 日 時 分 気温 °C			月 日	月 日
	晴天時の地温			曇天時の地温			水分量 %	発芽日数
	5 cm	10 cm	15 cm	5 cm	10 cm	15 cm		
裸地区								
しきわら区								
プラスチックフィルム	透明区							
	緑色区							
	黒色区							

(2) 作物の草丈、収量調査